

学力向上につながる組織的・継続的な校内研修の在り方について

～授業研究担当者育成研修・出前研修の効果的な在り方を探る～

三重県教育委員会事務局

研修企画・支援課

研修員 鈴木 和明

I 研究の目的

学力向上をめざすための組織的・継続的な校内研修の在り方について調査研究し、その改善方法を探ることを目的とする。そのために、当班が企画運営する「授業研究担当者育成研修」と「出前研修」において、組織性と継続性を重視した校内研修改善のための成果と課題を整理し、改善策を探っていく。

II 研究の内容

1 授業研究担当者育成事業から見える当県の校内研修のようす

平成 27 年度「授業研究担当者育成研修」において、重点推進校の校内研修の様子を調査し、そこで校内研修がどのように進められ、そして当研修を受講した結果、どのように改善されていくのかを探り、研修の質を高めるためにはどのようなことが必要なかを考察した。

(1) 集合研修及び研究協力校研修からの考察

重点推進校の研修担当者が一同に集まって行う集合研修や、研究協力校研修から、重点推進校の校内研修の課題や研修担当者の課題解決のために必要な手立て等について考察した。

ア 課題解決のために必要な主な手立て

- ・研究テーマに基づき、授業について誰もが話し合えるように検討会の方向性や方法を明らかにする。
- ・校内研修を一過性のもので終わらせないように、これまでの記録や「自分化シート」・「研修だより」等を活用し、連続性を持たせる。
- ・可視化・自己教材化をする。
- ・PDCA サイクルを確認したり、中長期計画を立てたりする。

イ 手立てを学ぶための集合研修における工夫・改善案

- ・グループ交流の場で、互いの課題や悩みを交流し合う。
- ・重点推進校各校の研修改善に役立てるため、研究協力校研修の時期を検討する。
- ・先輩研修担当者との交流の機会を増やす。

(2) 重点推進校における校内研修からの考察

重点推進校の研究授業や事後検討会の様子を観察し、集合研修での学びが各校でどのように生かされているかを把握した。そして「授業研究担当者育成研修」の成果と課題、改善点について考察した。

ア 重点推進校訪問 5 校を訪問して見えてきたこと

- ・研修担当者が学んだことを実践することによって、校内研修が活性化されていた。
- ・複数回訪問することができた学校では、訪問した機会を比較することにより、研修の進捗状況や、継続的な取組状況がわかった。
- ・教員の意欲の向上と研修内容の質の向上のためには、以下の 4 つのポイントが重要である。
1 討議方法の工夫 2 視覚化 3 自分化 4 組織化

(3) 「校内研修チェックシート」の開発

校内研修の成果と課題を視覚化し、研修改善に役立てられる「校内研修チェックシート」を開発し、継続評価するための検証を行った。

ア「校内研修チェックシート」の主な成果

- ・各回の成果と課題が視覚的に分かりやすくなった。
- ・観点を重要だと思われる6つに絞り込んだので、評価がしやすくなった。
- ・研修が進むにつれての進捗状況や達成度が明確になった。

イ「校内研修チェックシート」の主な課題

- ・この評価基準で評価しきれない部分があったときに、どのようにこの評価基準にあてはめるか。
- ・評価については、4～5段階評価が理想であるが、評価基準等を考え、さらに検討する。

2 「出前研修」の取組について

「小学校国語の問題づくり出前研修」と「小学校算数の問題づくり出前研修」の二つに焦点をあてて調査研究を行った。そして、それらの成果と課題を見出し、今後の在り方について考察した。

ア「出前研修」の主な成果

- ・受講者の意識向上につなげることができた。
- ・受講者が授業改善をするきっかけになった。
- ・研修後の実践に生かし、子どもの学力向上につなげることができる。

イ「出前研修」の主な課題

- ・一度研修を受けただけでは、十分理解できないことがある。
- ・研修の効果がその後どのようになったか、事後の確認・検証がなされていない。

3 「授業研究担当者育成研修」の主な成果と課題

ア「授業研究担当者育成研修」の主な成果

- ・集合研修等で互いの課題や悩みを交流し合うことは有効であった。
- ・研修担当者は本研修で学んだことを、積極的に自校の校内研修に取り入れることで、重点推進校の校内研修に進歩が見られた。
- ・重点推進校の教員の校内研修に対する意識の高まりが見られた。

イ「授業研究担当者育成研修」の主な課題

- ・受講者同士の交流の場はあったが、先輩研修担当者との交流の場が少なかった。
- ・先進校の研究発表会の案内等、重点推進校が参考になるような情報発信が少なかった。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 「授業研究担当者育成研修」では、集合研修や重点推進校の事後検討会の様子を参観することにより、集合研修の効果や、各校の校内研修の改善状況を実際に確かめることができた。その結果、校内研修の重要なポイントを、討議方法の工夫、視覚化、自分化、組織化の4つに整理することができた。さらに、「授業研究担当者育成研修」の成果と課題、そして改善策を見出すことができた。
- (2) 校内研修の成果と課題、達成度等の実態を、正確かつ継続的に把握するために、「校内研修チェックシート」を開発した。
- (3) 「小学校国語の問題づくり出前研修」と「小学校算数の問題づくり出前研修」では、それぞれ2回ずつ同行し、活用力を高めるための問題づくりの方法を学ぶことができた。そして、成果と課題、改善策を見出すことができた。さらに、「事後アンケート」の原案を作成した。

2 課題

- (1) 「校内研修チェックシート」を、実際の重点推進校訪問では使用することができなかつたため、今後は実際の事後検討会で使用するなどして検証を重ね、ブラッシュアップしてより効果が上がるものにしていく必要がある。
- (2) 「問題づくり出前研修」では、受講者が研修終了後に学んだことをどのように生かしているのか、また、それによって子どもにどのような変容があったのか等を調査することができなかつたので、「事後アンケート」の検討を進めるなど、より効果的な持ち方を検証する必要がある。